

エグゼクティブサマリ

■事業背景と目的

維持期のリハビリテーションは介護保険で支えるという基本的な考え方を踏まえ、標準的算定日数を超える長期的なリハビリテーション介入（以下、長期リハ介入）は段階的に見直されている。平成 24 年度診療報酬改定では医学的な判断に応じた評価見直しとなり、要介護被保険者等に対するこれらのリハビリテーションは平成 26 年 3 月末までと明記された。また、医療・介護の円滑な連携という方向性に照らすと、受け入れ側となる介護保険のリハビリテーションの充実が欠かせない。そのため、長期リハ介入が有効な患者の疾患や状態像を把握し、介護側で整えるべき条件を把握する必要がある。

本調査では、運動器疾患および脳血管疾患について、医療機関を対象に長期リハ介入が効果を認める状態像を調査した。また、結果を踏まえた状態像を介護保険事業所・施設に提示し、受け入れの現状と受け入れに必要な条件を明らかにした。

■長期リハ介入に関する主な調査結果

1. 医療側が効果を認める状態像

運動器疾患および脳血管疾患に関わらず、「合併症により標準的なリハが遂行できなかった例」、「障害の受容に期間を要した例」、そして「就労・復職を目的とする例」で有効と考えられた。また、脳血管疾患の場合、「機能再建療法等の実施後の例」で長期リハ介入の効果を認めた。一方、長期リハ介入が必要な状態像であっても、運動器疾患リハで 37%、脳血管疾患で 28% がその後リハを終了していた。介入終了割合をその必要理由別にみると、「機能再建療法等の実施後」や「合併症による運動中止基準に該当し介護保険の適用となりにくい」で、30% を下回った。これらから、長期リハ介入が有効な状態像は、①医療リハの開始が遅れまたは十分な量が提供されなかったことにより標準的算定日数を経過しても回復過程にある群、②高度な医療管理が必要で、介護側での設備・治療方法等が十分でないために医療保険に留まる群、③回復そのものが遅延し、さらに医学的なリハが必要な群が考えられた。

2. 介護側の受入れ実績

運動器疾患も脳血管疾患も、「障害の受容に期間を要した例」（運；56.6%、脳；39.4%）や「合併症により標準的なリハを実施できなかった例」（運；42.9%、脳；38.7%）で介護保険事業所・施設において受入れ実績が多かった。一方、「脳血管疾患で機能再建療法後の例」（17.8%）「就労・復職を目標とした例」（運；8.8%、脳；18.5%）で少なかった。

3. 介護側の受入れ可能性（表）

受け入れの可能性は、状態像で差が無く、いずれも「条件を整えば」という回答が多かった。期待値を基準に考えると、介護側で受入れが難しいと考えられたのは「脳血管疾患で機能再建療法実施後の例」（39.5%）、「就労・復職を目的とする例」（運；25.9%、脳；33.5%）であった。「合併症により標準的なリハが遂行できなかった例」は、条件を整えば出来るとしたものが多かった（運；55.2%、脳；46.0%）。

4. 介護側が受入れるために必要な条件

「合併症などにより標準的なリハが遂行できなかった例」では、「病状の安定」「医学的管理」「リスク管理」「急変時の対応」の条件が多かった。「運動器疾患で就労・復職などを目標とした例」や「脳血管疾患で機能再建後の例」では「スタッフの知識・技術の向上」が多かった。実施単位数は、合併症などによりリハ開始が遅れた例を除き、医療側はすべて 13 単位/月（中央値）であったのに対し、介護側では 8 単位/月（中央値）が最も多く、介護側の実施単位数が少ないことが分かった。

■まとめ

1. 医療側調査により、長期リハ介入が有効な状態像が明らかになった（表参照）。
2. 標準的算定日数を超えた者の、約 3 割が医療保険によるリハを終了していた。
3. 医療側において合併症などによりリハが遅延した状態像に対し、介護側は、病状の不安定を理由に受け入れが難しいとしている。一方、急変時の対応や医学的管理を整えば受け入れが可能とするものが、約 4 割であった。
4. 就労・復職を目指すものは 15% 程度見込まれるが、医療機関でのリハ継続が適切と考えられた。
5. これらの状態像を地域ケア会議の検討例とすることや、今後、タイムスタディなどの更なる研究が必要である。

表 状態像と受入れ可能性のクロス表

分類	状態像	受け入れ可能性の回答(%)		
		できる	できない	条件を整えばできる
運動器疾患	合併症などにより標準的なリハが実施できなかった	23.9	19.8	55.2
	障害の受容に期間を要した	38.6	19.4	40.3
	就労・復職などを目標	31.8	25.9	41.2
脳血管疾患	合併症などにより標準的なリハが遂行できなかった	20.6	32.0	46.0
	就労・復職などを目標	26.5	33.5	37.9
	機能再建療法実施後の例	20.4	39.5	38.8
	障害の受容に期間を要した	32.3	24.9	41.5
	期待値	27.7	27.9	43.0